



医学部 Acute Care Surgery 講座／高度外傷センター

最先端救急診療ユニット「ハイブリッドER」による
高度外傷診療の未来



ハイブリッドERの全景



ハイブリッドERでの緊急手術



ハイブリッドERでの緊急血管内治療

高度外傷センターでは、重症外傷及び重症救急診療を迅速かつ安全に行うため「ハイブリッドER」を設置しています。「ハイブリッドER」とは、救急初期診療室、CT室、手術室、血管造影室の4つの機能をもつ最先端救急診療ユニットで、国立大学病院では当院が初めて導入しました。これを使用することで患者来院から6分で緊急CT検査が始まり、10分までには損傷部位を特定してそのまま直ちに救命のための緊急手術や血管内治療を開始することができます。

交通事故などの重症外傷は時間との勝負です。このユニットでは直ちに診断と治療が開始できることから、従来救命に至らなかった重度の外傷患者さんの救命が期待されています。島根県の外傷死は他県と比較して急速に減少の傾向にあります。

高度脳卒中センター

山陰初の脳卒中ケアユニットが稼働しています



脳卒中ケアユニット



脳卒中ケアユニットスタッフ



ベッドサイドリハビリテーション

2021年10月から脳卒中の患者さんの入院治療を強化するため、山陰地方ではじめて脳卒中ケアユニットを開設しました。「脳卒中ケアユニット」は、脳卒中専門の集中治療室であり、高度脳卒中センターのメンバーが24時間対応し、専門看護とリハビリテーションにより患者さんの回復を促します。3床から開始しましたが、2022年4月からは6床に増床する予定です。

「脳卒中ケアユニット」は高度脳卒中センターの中核となり、多職種が連携した脳卒中診療と人材育成という役割が期待されます。熱いスタッフとともに脳卒中診療に励んでいます。

地域医療の最後の砦
救命医療体制の拡充

島根大学医学部附属病院は、「地域医療と先進医療の調和」を理念として、地域で完結できる医療体制の構築を目指しています。地域に信頼され、そして愛される病院となるため、24時間、365日取り組んでいる地域を守る体制をご紹介します。

島根県は東西に長く、中山間地域や隠岐諸島を有するなどの地理的特徴のほか、高齢化率も高い(2020年10月1日現在で全国4位)という特徴を有しており、地域を支える医療がますます重要となっています。

島根大学医学部附属病院では、2020年度に456

件の医師派遣を県内の医療機関に行うなど、医師の地域偏在や診療科偏在を解消するための取り組みにより、地域医療を支えています。一方、大学病院は、先進的な医療を提供することが求められています。日々高度化する医療に対しては、大学病院の総合力を集約して発揮できるような二つの職種あるいは診療科にこだわらない、横断的・柔軟な体制構築が重要です。

2016年4月に設置された高度外傷センターによって、不慮の事故や災害による外傷の治療体制を強化しており、島根県のドクターヘリや防災ヘリによる県内全域から重症の外傷患者を引き受けています。さらに、救命治療を迅速に行うため、消防署からの要請に応じて、医師が乗ったドクターカーを出動させ、救命率向上を目指しています。

高齢化の進展により患者の増加が見込まれるのが脳卒中です。この迅速な治療のため、2020年9月に高度脳卒中センターを開設し、専門医が交代で24時間、365日対応しています。2021年10月には、脳卒中ケアユニットを設置し、速やかな診断と的確な治療はもちろん、その後のリハビリテーションや療養、社会的サポートを視野に入れた体制としています。

そして、最も大切なのは、地域医療との調和です。先進的な治療を受けた後を支えるのは、地域での医療です。県外に行かず、地域で治療を完結できることを目指し、これからの地域に根ざす大学病院の果たすべき役割を真摯に考え、職員の力を結集して、島根の医療を守り、安全・安心で最善な医療を提供していきます。